

記者のたまご
北中生が行く!!



北中生3人組、取材デビュー!

職業体験で区役所広報担当に配属されたわたしたち新北野中学校の生徒(北中生)3人が広報誌づくりに初挑戦!

8月15日に72回目の終戦の日を迎えるにあたり、戦争の恐ろしさや平和の大切さを、改めて胸に刻むため、淀川区で戦争を経験された金津博直さんにお話を伺い、北野高校や十三公園にも取材に行ってきました。



旧制中学校入学の年に太平洋戦争が始まり、終戦の年に通常より1年早く卒業。戦争と共に過ぎた中学校生活でした。

金津 博直さん(89才)

Q 強く印象に残っていることは?

A 焼夷弾が空中でバラバラになって落ちてくる時の大雨みみたいな「ザー」という音。当時は木造住宅が多く、一気に燃え広がった。町は全部焼けて、コンクリート製の建物以外は、家から十三駅まで見渡せるほど、何も残らなかった。パイロットの顔が見えるほど低空を飛ぶ飛行機も忘れられない。

Q 当時の心境など教えてください

A 空襲ですべて焼けてもそれほど衝撃はなかった。戦争中だからあたりまえ、命があるだけありがたいと感じていた。「人生25年」と冗談で言い合うほど、人が亡くなるということが日常的になっていた。

Q どんな中学校生活を送っていましたか?

A 中学1~2年生までは学校で勉強することができた。3年生から勤労動員が始まり、兵器の整備や防空壕掘りなど様々なことを経験。昼休みには少しだけ勉強もできた。動員が嫌だとは言えない時代。本当に戦争の役に立つのかと思いながら工場へ向かっていた。



戦争当時の淀川区のことをもっと知りたい...

戦後70年DVD貸出し実施中!

タイトル: 淀川区戦後70年事業
「次世代につなぐ戦争の記憶」
命の物語~未来の君たちへ~

期間 1回につき10日間

費用 無料

問合せ 政策企画課(広報)5階51番

☎6308-9404



編集後記



佐藤さん

北野高校で特別に見せてもらった鉄カブト(※)と十三公園のサルの像が印象的でした。鉄カブトはものすごくへこんでいて、それだけ爆弾の力が強かったんだなと思いました。サルの像はポツンと立っていて寂しそうでした。この取材で戦争は2度としてはいけないという気持ちが強まりました。

※一般公開はしていません。



菅さん

私はこの2日間で改めて戦争の恐ろしさを知りました。一番心に残ったのは金津さんの「十三駅から町全体を見渡せた」というお話です。その言葉を聞いたときは恐ろしさのあまり言葉が出ませんでした。昔はできなかった勉強や良い生活などができて私たちはとても幸せだと心から思いました。



松本さん

これまで区役所に行く機会があまりなかったのですが、色々なところを取材でき、とても楽しかったです。金津さんから、戦争中の大阪の様子など、戦争体験者だけが知ることをたくさん教えていただきました。北野高校の壁など様々な戦争にかかわる物が今でも多く残っているのはすごいと思いました。

